

スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールドに

みる内発的発展

人文学部人文学科
人文地理学研究室
11110082 4年 田内俊悟

目次

- I はじめに
 - 1. 問題の所在と既存研究
 - 2. 研究目的と研究方法
- II 調査地概要
 - 1. 富山県南砺市
 - 2. ヘリオス
 - 3. スキヤキ
- III 調査結果
- IV スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールドにみる内発的発展
- V おわりに

I はじめに

1. 問題の所在と既存研究

内発的発展・・・1975年に開催された第7回国連経済特別総会の際のダグ・ハマースホルド財団による報告「何をなすべきか」により提唱

- ①基本的に必要に関連している
- ②内発的である
- ③自立的である
- ④エコロジ的に健全である
- ⑤経済社会構造の変化が必要である

発展とは「内部から発現するもの」でなければならない(淀野 2007)



・日本における内発的発展論の展開

社会学からの観点

地域経済学からの観点

} 二つの流れ

内発的発展の定義に若干の違いが、、、



しかし、地域住民の主体性・内発性や創造性、文化、地域-地域外部とのかかわりを重視している点では一致(淀野 2007)

・地域イベント

地域の自主組織が主体となって行うイベント

全国各地で開催(規模はさまざま)

目的・・・地域活性化、まちづくり推進などなど

地域を内発的側面から活性化し発展させていくために行われる→

「地域内発型まちづくり」と定義(津田 2009)

・具体的な事例

大分の「一村一品運動」

地域文化に依拠した「モノ」づくり

住民の自主自立や地域リーダーの育成

地域の内発性を呼び覚ます事例



既存研究

池上ほか(2004)・・・山形県小国町の独自性を持ったスポーツ・レジャー施設をとりあげ、これらの施設が地域住民に対する意識や小国の活性化にどのような変化をもたらしたかを調査。地域行事への参加促進、住み心地が高められるという結果が得られた。

津田(2009)・・・宮城県角館町(現仙台市)での地域イベント「想 nic Art 2008」をとりあげ、「場」「人」「地域間提携」の観点から内発的発展を考察。イベントを構想から実行に移すことや交流によって新たなイベントを展開するといった内発性がみられた。

研究目的

富山県南砺市福野地域で開催される「スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド」を研究対象としてとりあげる

→スキヤキを内発的發展論からみるとどうなのか？

仮説

福野周辺地域を巻き込むことでまちづくりに繋がっているのではないかと？



7

研究方法

1) 聞き取り調査

スキヤキスタッフ・ヘリオス職員

スキヤキ実行委員会に調査

2) 資料調査

スキヤキについて書かれたコラムやインタビュー記事、新聞記事、報告書、町史などから

8

II 研究対象概要

1) 富山県南砺市
2004年に8つの町村
が合併して誕生
五箇山の合掌造りなど
固有の文化が存在



0 0.5 1キロメートル



第1図 研究対象地域

9

2) ヘリオス
スキヤキの開催場所
南砺市直営

3) スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド

1991年に初めて開催され、昨年八月には24回目を迎える
会場・・・ヘリオスと南砺市園芸植物園

主催・・・スキヤキ実行委員会

取り組んだ経緯・・・

行政側) 継続的なホール事業として地域活性化を進めたい！

スキヤキ・ネットワーク) 町を盛り上げていきたい！

⇒ヘリオスの特徴である円形劇場を活かせるイベント
ワールド・ミュージックが向いているのでは？



スキヤキの誕生

10

スキヤキに関わる組織

1) スキヤキ・ネットワーク

1991年、旧福野町の若者たちによって設立

第4回までは中心としてイベントをけん引

2) スキヤキ実行委員会

1995年設立

行政とボランティアによる組織だが、中心はボランティア

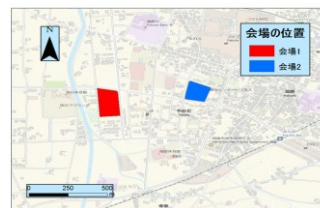
第5回から中心として現在に至るまでスキヤキをけん引する

3) ヘリオス

場所の提供、補助金の申請など雑務担当

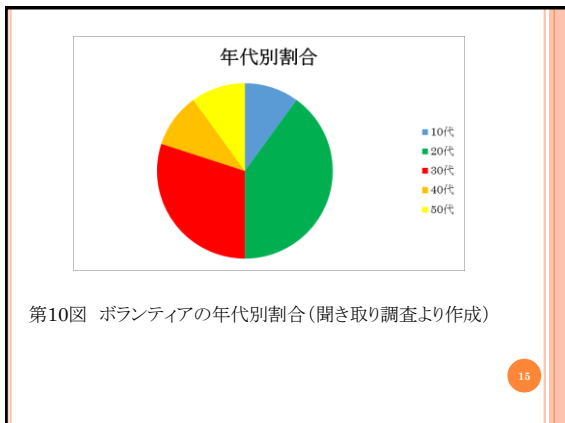
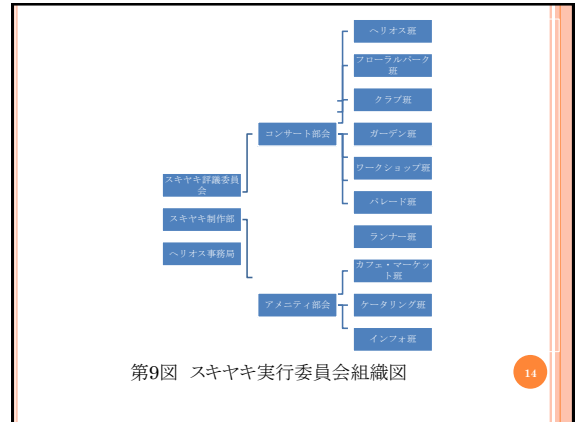
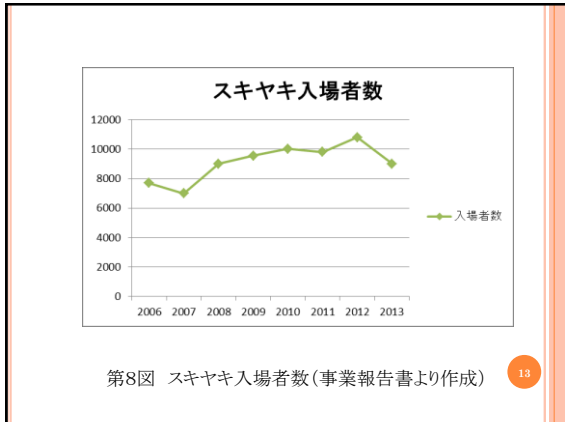
開催期間中は運営事務局として機能

11



第6図 スキヤキ会場

12



スキヤキから生まれた市民楽団

第4表 スキヤキから誕生した楽団(報告書より作成)

名前	設立	設立経緯
スキヤキ・スティール・オーケストラ(SSO)	1995年	異文化を地理に根付かせるため
スティールドラムクラブ「気分はカリビアン」	1997年	小学校にスティールドラムを設置した際に結成
無国籍打楽器集団「サマラレクム」	1998年	打楽器のワークショップから誕生
韓国打楽器グループ「サムルノ・シグ！」	2003年	サマラレクムと同様、ワークショップより誕生
スキヤキ観指ポロリンズ	2009年	観指ピアノのワークショップより誕生

III 調査結果

聞き取り調査より

- ・スタッフ

自分たちが中心→よりよくしていきたい
人と人との交流の場
⇒内発性がみられる

- ・ヘリオス職員(行政)

スタッフの補助
開催期間中は周辺地域が活性化
⇒まちづくりのイベントとして機能している

IV スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールドにみる内発的発展

津田(2009)の手法を参考に
「場」「人」「地域間提携」という3つの観点から考察

- ・「場」

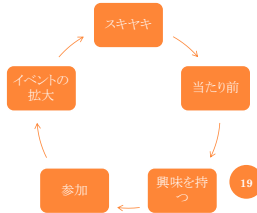
スキヤキという場が人と人との交流を促進
⇒プロモーターに頼らないアーティストの
独自招聘の実現
⇒スキヤキの開催により、周辺施設の活性化
(ホテルが満室、スーパーの売上が上がる)

・「人」

イベントを支えるスタッフにイベントを「よりよくしていこう」という内発性がみられる

持続性のあるイベントとして地域に根付いた結果、若い世代にとって「当たり前」の存在に

⇒興味を持つ⇒スタッフとして参加⇒イベントの継続理由となる



・「地域間提携」

開催当初の会場・・・ヘリオスのみ

現在・・・ヘリオス、南砺市園芸植物園、駅前など

1つの場から展開し、拡大

県内外に限らず、東京などでのイベント開催や台湾や中国といった国外にも進出

国外の国際音楽祭とも交流を深めている

20

まとめ

・スキヤキに関する考察

鳥越ほか(1993)はイベントを成功させる要因として

- ①新鮮さ
 - ②個性的(ユニークさ)
 - ③話題性
 - ④継続性を挙げている
- スキヤキ・・・すべてに該当

➡ スキヤキは地域に定着し、国内外にまでイベントが開催できるほど成長した

21

V おわりに

スキヤキはなくてはならない地域イベントとして地域に定着



目的であった異文化交流によって新たな地域文化の創出の実現

スキヤキという「場」に携わる「人」が交流することで「地域間提携」が行われている



地域が活性化し、まちづくりのイベントとして機能する

22

伝統文化に固執することではなく、異文化交流を図ること
で新たな地域文化を作りあげたといえる



地域文化を担う人(スキヤキでみればスキヤキスタッフ)がイベントを通し、地域内外のものと交流する。さらにそれを高め、作り変えていく過程にこそまちづくりの新たな可能性を見いだせるのではないかと考える
今後もスキヤキの展開に注目していきたい

23

ご清聴ありがとうございました。

24